

総合企画専門委員会による現地調査の概要報告

1 実施目的

本県の復興に向けた取組の状況や課題等を、総合的、専門的な見地に立って検証し、今後予定している「復興実施計画（第2期）」の策定等に反映させる。

2 訪問先等

(1) 沿岸北部（宮古市及び田野畑村）〔5月28日（火）〕

ア 参加者

齋藤委員長、豊島副委員長、谷藤委員、広田委員、南委員（委員5名）

イ 訪問先

- ・たろちゃんハウス 〈たろちゃん協同組合理事長との意見交換〉
- ・田老観光ホテル 〈市及び観光協会等との意見交換〉
- ・田野畑村役場 〈村との意見交換〉
- ・田野畑村羅賀及び島越地区 〈漁業集落防災機能強化事業による移転団地の視察〉
- ・平井賀漁港 〈村及び漁協との意見交換〉

(2) 沿岸南部（釜石市及び大槌町）〔6月6日（木）〕

ア 参加者

齋藤委員長、豊島副委員長、谷藤委員、平山委員、若林委員（委員5名）

イ 訪問先

- ・釜石公共職業安定所 〈釜石地区の雇用情勢等の調査〉
- ・釜石市片岸地区 〈国が選定した防潮堤事業の用地取得迅速化に係るモデルケースの視察〉
- ・大槌町福幸きらり商店街 〈仮設商店街の視察〉
- ・大槌町役場 〈仮設商店街の商店主等との意見交換〉

3 調査概要

(1) 沿岸北部（宮古市及び田野畑村）〔5月28日（火）〕

訪問先 (意見交換等の相手方)	意見交換等の概要
たろちゃん ハウス (協同組合理事長)	<ul style="list-style-type: none"> ・応急仮設住宅の入居者が減少。仮設店舗での営業のピークは過ぎた。 ・今後、高台に移転する人と区画整理で残る人との、従前のコミュニティが分散することになるが、その中で小売業をどう成り立たせるかが課題。
田老観光 ホテル (宮古市・観光協会等)	<ul style="list-style-type: none"> ・津波の惨状を伝えるため、田老観光ホテルを震災遺構として保存したいが、なかなか復興交付金で採択されず、財源が決まっていない。 ・ジオパークの認定を目指している。浄土ヶ浜とともに、三王岩、震災遺構、遊歩道をルートとした観光を売り出していきたい。
田野畑村 役場 (田野畑村)	<ul style="list-style-type: none"> ・任期付職員の採用や、他自治体から職員派遣の応援を受けてもなお、特に技術系職員が不足。 ・被災者に災害公営住宅や持ち家で正月を迎えてもらうことが目標。
羅賀及び 島越地区 (田野畑村)	<ul style="list-style-type: none"> ・広田委員から、「高台に移転する人と従来の地に残る人との従来のコミュニティが分断される。高台移転後のコミュニティをどうしていくかが課題」との意見あり。
平井賀漁港 (田野畑村・村漁協)	<ul style="list-style-type: none"> ・養殖施設や、仮設だが加工施設が復旧し、漁船もかなり回復した。しかし港内には水中がれきが残存しており、特に干潮では作業ができない。 ・収入が被災前の1/2~1/3くらい。内陸の収入が確実な仕事に人が流れていく。高齢化も進んでおり、担い手確保が課題。 ・こんぶ漁については、共同施設等には国補助があるが、個人経営の場合はない。この地域では家族経営が多いため、やりづらい。

(2) 沿岸南部 (釜石市及び大槌町) [6月6日(木)]

訪問先 (意見交換等の相手方)	意見交換等の概要
釜石公共 職業安定所 (釜石公共職業安定所)	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、月間有効求職者数は震災前年同月を下回っているが、月間有効求人数は震災前年同月比の約3倍と、労働力不足の傾向が見える。 ・住宅供給は人口減少抑制の一方法だが、現状では、盛岡等からの遠隔通勤者に優先的に供給されることになり、課題解決の決定打にはならない
釜石市 片岸地区 (沿岸広域振興局)	<ul style="list-style-type: none"> ・用地取得迅速化のモデルケース。あくまでも現行制度の下で事務を実施中。震災前ではあまり例がなかった、不在者財産管理人制度等を行う。 ・作業が進捗しているのは、県としても最大限戦力を投入しているため。 ・「所有者不明」、「多数相続」や「相続人の一部が行方不明」は、かなり大きな課題。膨大な作業量に押し潰されそうになっている。
福幸きらり 商店街 (商店街事務局)	<ul style="list-style-type: none"> ・震災前は個々に経営していた商店が、仮設店舗で共同運営をはじめた。 ・ボランティア数が減少するなどの影響で、来客数が減少。
大槌町役場 (大槌町・仮設商店街の 商店主等)	<ul style="list-style-type: none"> ・福幸きらり商店街は、震災後に仮設店舗で共同運営をはじめたが、結果的に良い方向で進んできた。本設へ移行の際も、引続き同じ場所で共同運営をしたい。 ・町方地区は目に見える復興が進んでいない。住民は、城山を境に大槌川沿線と小槌川沿線とに移り始めており、町が二分されつつある。 ・役場と交通の拠点がまちづくりの中心となるが、JRの復旧はどうか先行きが見えない。隣市の大型店舗出店の影響も気にかかる。 ・産業用地の嵩上げには数年程度の時間が必要であり、その時点でも、グループ補助金等の支援が継続されているのか不安である。

現地視察の様子

(1) 沿岸北部（宮古市市及び田野畑村）〔5月28日（火）〕

・ たろちゃんハウス



・ 田老観光ホテル



・ 田野畑村役場



・ 田野畑村羅賀地区



・ 移転団地 島越地区（松前沢）



・ 平井賀漁港（漁業者との意見交換会）



(2) 沿岸南部（釜石市及び大槌町）〔6月6日（木）〕

・釜石公共職業安定所



・釜石市片岸地区



・福幸きらり商店街



・大槌町役場

